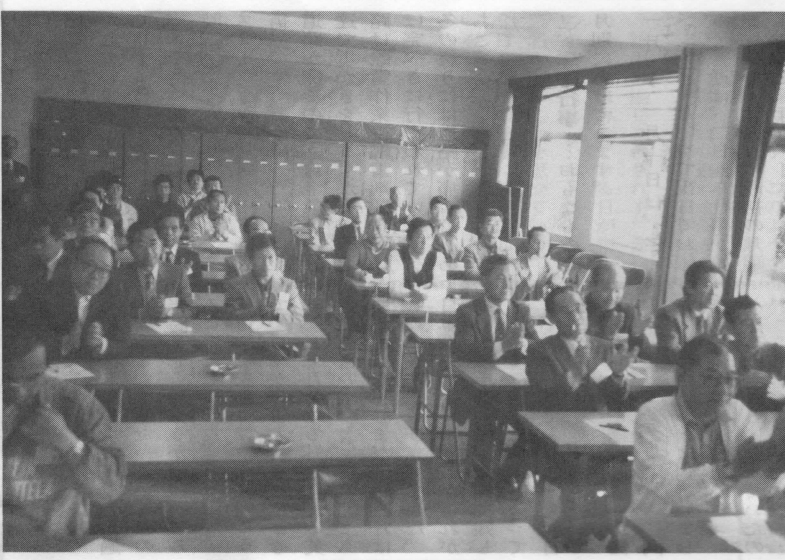


昭和63年度定期総会開かる

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第29号
昭和63年9月30日発行
三翠化学会
津市上浜町1515
三重大学農芸化学科内
電話/津(0592)32-1211
振替/名古屋9-59345
印刷/株式会社あるむ
TEL(052)332-0861大8長谷川正一



昭和六十三年度の定期総会が去る四月二十四日に三重大学生物資源学部附属農場の教室を会場にして開催された。当日は定期総会に続いて東海支部総会と三重県支部総会が開催され、東京・大阪・広島など遠方からの参加者や、家族の出席者も加えて八十名が参集した。

総会は十一時すぎから、原田副会長(専3大)の開会の辞で始まり、渡辺会長の挨拶に続いて来賓挨拶を梅林先生からいただいた。

織強化をアピールし、集会への多数参加を呼び掛けられた。梅林先生は元学科主任で、母校の学部長とコース主任に代わって挨拶され、新学部の様子、大学・卒業生間で研究上連携の必要なことを述べられた。

また基金の庶務・会計報告とその監査結果が基金運用委員会の高橋委員と若林監事(専1)によって行われ、承認された。次に、評議員の追加指名と指名変更、幹事の追加委嘱があり、会長から武藤秀弥氏(大3大)の指名と青山茂樹氏(大3大)の指名変更、梅川逸人氏(院1大)の幹事委嘱があり、いずれも承認された。

最後に、青木みか氏(大1)作詞の三重大学生歌を伊藤芳直氏(大6)のリードで、応援歌を今西勝氏(専1)のリードで合唱し、万歳を里村雅喜氏(専1)の音頭で三唱して午後三時に会を閉じた。

この会は、三重県支部の佐々木支部長と今井滋氏(大9)、更に、附属農場の向井義榮氏(大4)クラス以降、現在までの学生厚くお礼申し上げたい。

家族を伴い—東海— 三重県両支部総会も

最後に、青木みか氏(大1)作詞の三重大学生歌を伊藤芳直氏(大6)のリードで、応援歌を今西勝氏(専1)のリードで合唱し、万歳を里村雅喜氏(専1)の音頭で三唱して午後三時に会を閉じた。

最後に、青木みか氏(大1)作詞の三重大学生歌を伊藤芳直氏(大6)のリードで、応援歌を今西勝氏(専1)のリードで合唱し、万歳を里村雅喜氏(専1)の音頭で三唱して午後三時に会を閉じた。

最後に、青木みか氏(大1)作詞の三重大学生歌を伊藤芳直氏(大6)のリードで、応援歌を今西勝氏(専1)のリードで合唱し、万歳を里村雅喜氏(専1)の音頭で三唱して午後三時に会を閉じた。

も承認された。最後に総会出席の会員の中から発言があり、生物資源学部の発足に伴って同窓会の歴史ある三翠の名が残るかどうかという懸念が表明された。ここで総会議事を終了して支那支部総会に移った。

晴天のもと、梅林・伏伏・奥村の三先生をお迎えして、広瀬和久氏(大20)の司会で始まった。まず渡辺会長の挨拶に続いて、佐々木三重県支部長から連絡事項と挨拶があり、別府東海支部長による乾杯の音頭で焼き肉パーティーが始まった。

三翠化学会昭和62年度決算報告

(単位:円)

| 1. 収入の部 | | 2. 支出の部 | |
|---------|-----------|---------------------|-----------|
| 項目 | 決算 | 項目 | 決算 |
| 前年度繰越 | 499,371 | 会報印刷費 | 550,000 |
| 雑収入 | 800,000 | 郵送通信費 | 350,000 |
| 雑収入 | 10,629 | (以上の予算は61年度未払い分を含む) | |
| 計 | 1,310,000 | 過年度未払い分 | 322,100 |
| | | 会議費 | 150,000 |
| | | 人件費 | 110,000 |
| | | 三翠会連絡協議会 | 30,000 |
| | | 事務費 | 40,000 |
| | | 予備費 | 80,000 |
| | | 計 | 1,310,000 |
| | | 計 | 894,825 |

*: 61年度未払い分 322,100 を含む
差引次年度繰越..... 515,076
(内62年度未払い分..... 162,000)

三翠化学会昭和63年度予算

(単位:円)

| 1. 収入の部 | | 2. 支出の部 | |
|---------|-----------|----------|-----------|
| 項目 | 前年度 | 項目 | 前年度 |
| 前年度繰越 | 515,076 | 会報印刷費 | 600,000 |
| 雑収入 | 800,000 | 郵送通信費 | 360,000 |
| 雑収入 | 14,924 | 議費 | 150,000 |
| 計 | 1,330,000 | 人件費 | 60,000 |
| | | 三翠会連絡協議会 | 30,000 |
| | | 事務費 | 50,000 |
| | | 予備費 | 80,000 |
| | | 計 | 1,330,000 |
| | | 計 | 1,310,000 |

*: 62年度未払い分 162,000 を含む

三翠化学基金決算報告

(S 63.3.31) (単位:円)

| ●収入の部 | | ●支出の部 | |
|----------|-----------|---------------------|-----------|
| 前年度より繰越 | 2,007,414 | 支部補助金 | 80,000 |
| 国債利息 | 28,960 | 新入生歓迎会補助 | 30,000 |
| 定期郵便貯金利息 | 133,014 | 総会補助 | 50,000 |
| 計 | 2,169,388 | 総会写真費 | 20,170 |
| | | (プリント、封筒、郵送費含) | |
| | | こうより補助 | 30,000 |
| | | 卒業記念品費(カバン41個) | 45,100 |
| | | 雑費(コピー、郵送費) | 1,510 |
| | | 計 | 256,780 |
| ●差引残高 | 1,912,608 | | |
| ●基金管理内容 | | 定期郵便貯金(20万円×50口) | 1,000,000 |
| | | 国債(40万円×1口、20万円×1口) | 597,340 |
| | | 郵便貯金 | 315,268 |
| | | 計 | 1,912,608 |

三翠同窓会再編さる —会長に菊岡元学部長就任—

愛知県などから遠路かけつけた三翠会員を加えて、午後三時から、同じ会場で、三翠同窓会の総会が開催された。

議事は、白井議長(土13)のもとに、三翠同窓会会則の改正を原案(この案文は三翠一五八号十三頁に掲載されている)通り承認し、会長に菊岡武男氏(土9)を、副会長に菊岡武男氏(土9)を選任した。さらに、副会長二名、顧問一名、理事四名、監事二名、評議員五八名、幹事五名を選出した。

三翠化学会からの役員には、理事に渡辺会長と嶋林氏(専1)、三翠同窓会経理担当者)が選出された。また評議員には各支部

昭和62年度 三翠化学会事業報告

昭和62年4月24日 第一回役員・評議員会および基金運用委員会

10月31日 会報第二十七号発行
昭和63年1月16日 第三回役員・評議員会および基金運用委員会

3月31日 会報第二十八号発行
7月15日 第二回役員・評議員会および基金運用委員会

4月24日 昭和63年度総会
7月15日 第二回役員・評議員会および基金運用委員会

12月 第三回役員・評議員会および基金運用委員会
3月 会報第三十号発行

昭和63年度三翠化学会事業計画

7月17日 第二回役員・評議員会および基金運用委員会
10月31日 会報第二十七号発行
12月 第三回役員・評議員会および基金運用委員会

オハイオ便り

石崎久嗣 (大18)

一、春夏秋冬……日本ほどはっきりしている季節が、四季があります。

まず、三月には殆んど雪も消えて、春らしくなっています。小鳥たちがいち早く察してにぎやかに鳴きます。気温は依然として零下ですが、太陽が顔をのぞかす日も多くなり、明るさが増してきます。でも一九八六年には四月二十日ごろに雪が降り、木々の新芽を痛めましたし、一九八七年には、四月四日に湿った大雪が降り、補習校の入学式も、ブーツと防寒コートのおかげでたまたま、つまり年によって大きな差があります。それでも、大抵四月になると、急に昼夜の気温差がはげしくなると、昼間は30℃ぐらいまであがる時もあり、まさに一足とびに夏が来たようです。木々は一斉に芽をふき、まっさきに、れんごのような花が咲き、つづいて百花繚乱です。日本の桜に似ているなど、近づいてみると、淡い紫モクレンの大木だったりして、びっくりさせられます。いつまでたっても桜のない春には、いままっさきさが残ります。

春

四月にはタンクトップとショートパンツという女性や上半身ハダカの男性も多く見かけます。そのままだけでいざこざ、八月まで暑さが続きます。梅雨はあきませんが、八七年は湿度の高さ、いく分日本に似た夏でした。また四月の末には、サマータイムに切り換わる(十月の末にまた標準時にもどる)ので、夜は十時ごろまで明るさが残り、すから風が吹くと夜になる15℃くらいまで下るので、夕方からの屋外コンサートでは、しっかりと夜露にぬれます。八月になると、昼夜の気温差もさらに大きくなり、カラッとします。そして八月末ごろに突然0℃ぐらいまで下る日があり、秋が始まります。また学校も新年度が始まります。

秋

朝は、気温が低いので(5℃~10℃)重ね着をしていった子供たちも、帰りは半そで半ズボンになっていきます。それも九月いっぱい。徐々に色づいた木の葉も、十月に入ると急速に色濃くなって散りはじめます。このあたりは、紅葉がはじまると、紅葉も少し日本とはちがいます。紅葉も少し日本とはちがいます。紅葉も少し日本とはちがいます。紅葉も少し日本とはちがいます。

夏

さて、日本では一応六月一日に衣替えをしますが、こちらではそんな習慣はなく、暑くなれば、そのような服装になります。四月にタンクトップとショートパンツという女性や上半身ハダカの男性も多く見かけます。そのままだけでいざこざ、八月まで暑さが続きます。梅雨はあきませんが、八七年は湿度の高さ、いく分日本に似た夏でした。また四月の末には、サマータイムに切り換わる(十月の末にまた標準時にもどる)ので、夜は十時ごろまで明るさが残り、すから風が吹くと夜になる15℃くらいまで下るので、夕方からの屋外コンサートでは、しっかりと夜露にぬれます。八月になると、昼夜の気温差もさらに大きくなり、カラッとします。そして八月末ごろに突然0℃ぐらいまで下る日があり、秋が始まります。また学校も新年度が始まります。

冬

年によって雪が多く厳しい寒さが続くときもあれば、殆んど雪もふらず暖かい日の多いときもあります。寒いときは20℃以下になります。暖かいといつても0℃前後、雪もサラサラです。風が吹くと夜になる15℃くらいまで下るので、夕方からの屋外コンサートでは、しっかりと夜露にぬれます。八月になると、昼夜の気温差もさらに大きくなり、カラッとします。そして八月末ごろに突然0℃ぐらいまで下る日があり、秋が始まります。また学校も新年度が始まります。



ははげしいのですが、室内は常にエアコンがきいているので冬は18℃~20℃、夏は20℃~25℃に保たれています(温度設定は自分でできます)。しかし、スクールバスを待つ間や、雪かきをする時、外を歩くときのために、スノーブーツや防寒コートは必需品です。雪が降ったあとは、道路が凍るので、自宅前は自分で雪かきをしますが、幹線道路は除雪作業や融雪剤散布がはやくは完ぺきにこなされています。冬の終りには道路が凍って、あちこち穴があいたりして、大変です。

二、年中行事……

一月……一月一日は、New Year's Day といって祝日でお休み。普通は、二日から仕事が始まります。学校も、最初の月曜日には授業再開。日本のようなお正月気分は、ありません。二月……何となくバレンタインデー。「女性から男性へチョコレートを贈る日」というのが日本だけ。ここでは、だれか社の方に会うことが出来、命拾いで、だれにでもよいし、チョコレートでなくても、キャンデーやクッキーでも何でもOK。三月……キリストの復活を祝うEaster Day (春分の日の後の最初の満月の日以後の最初の日曜日) 年によっては四月のことも

ははげしいのですが、室内は常にエアコンがきいているので冬は18℃~20℃、夏は20℃~25℃に保たれています(温度設定は自分でできます)。しかし、スクールバスを待つ間や、雪かきをする時、外を歩くときのために、スノーブーツや防寒コートは必需品です。雪が降ったあとは、道路が凍るので、自宅前は自分で雪かきをしますが、幹線道路は除雪作業や融雪剤散布がはやくは完ぺきにこなされています。冬の終りには道路が凍って、あちこち穴があいたりして、大変です。

三、留学……

文部省長期在学研究(六十一年度)による西ドイツミュンヘン工科大学の留学の機会を得て、無事帰国して早一年以上が過ぎました。しかし、スクールバスを待つ間や、雪かきをする時、外を歩くときのために、スノーブーツや防寒コートは必需品です。雪が降ったあとは、道路が凍るので、自宅前は自分で雪かきをしますが、幹線道路は除雪作業や融雪剤散布がはやくは完ぺきにこなされています。冬の終りには道路が凍って、あちこち穴があいたりして、大変です。

ははげしいのですが、室内は常にエアコンがきいているので冬は18℃~20℃、夏は20℃~25℃に保たれています(温度設定は自分でできます)。しかし、スクールバスを待つ間や、雪かきをする時、外を歩くときのために、スノーブーツや防寒コートは必需品です。雪が降ったあとは、道路が凍るので、自宅前は自分で雪かきをしますが、幹線道路は除雪作業や融雪剤散布がはやくは完ぺきにこなされています。冬の終りには道路が凍って、あちこち穴があいたりして、大変です。

西ドイツ留学記

小宮孝志

生実験程度のことを行っていた。大学院生は朝八時三十分から授業を受ける。昼は昼食をはき、一時間ほど休憩したのち、夕方五時まで実験室で無駄口もせず研究に打ち込んでいた。又その日の実験はタイプに打ち込み、データ整理をしていたのには感心させられた。この部門には三名の教授がいて、やはり日本とは違い教授の権限は強く、教授一人で三、四人の助手を使い、その助手が二人の女性の実験助手を使って研究を進めていた。博士コースは教授から月十六万円ほど支給され、それで生活し、研究は教授が直接指導していった。昼食はメンザで助手の先生と一語に三十分ほどかけて食事をしていました。夏に

かドイツの方は日本人ほど神経質でなく、少々の雨では傘をさす様子もありません。どうもこれはドイツ人の習慣のようです。各国の留学生と楽しく暮らす。ドイツハウスのオリオンピクニック。その頃、二ヶ月家賃すべて備え付けて約七万円に移動し、大変快適な毎日を送ることができました。五月ともなれば大学の周りは黄色のタンポポの花が一面に咲き乱れ、木々の枝は葉をいただいて新緑を増した。その頃か週一回のセミナーが始まり、助手の先生や大学院生(博士コース)が二十五分間の外国雑誌の論文を発表し討論を行うのです。私も七月のはじめに二時間ほどのセミナーを持つことになり、その原稿を二ヶ月ほどかけて作成し、「ハロゲノフエニルグルコシド」の題目で発表しました。これも私の初めての経験で、次から次に質問を浴びせられました。何をか切り抜けることが出来た。又その後、Oxybenzoneと云うミュンヘン付近の研究者の集まりがあり、夕方六時からビールとソーセージで食事しながら研究発表の会に私も招かれ、前と同じ研究発表をさせられ、少々酔いかげんしてしまいました。私のいた食品化学部門の学生は一学年二十名ほどで、日本のように卒論のメンザで話題は暫くそのことで持ち切りでした。

やはり値段は高く日本の三倍はしました。肉は大変安く、肉のかわりに二十マルクも買えば一週間分はあります。夕食は毎日ビールは欠かせません。ビールは種類も多く、ピルスはドイツとして大変おいしいですね。ワインもモーゼルやフランケン有名人で殆んどが白ワインです。それに対しミュンヘンの寒所ではビールが飲まれるというように、何処へ行こうとも酒は人間には欠かせないものなのであります。

「就職して思うこと」

苔庵 泰志

私が就職して早や半年が過ぎました。ようやく職場の雰囲気にも慣れ、少し落ちついてきたところですが、私の職場は三重県工業技術センターというところ

です。こは、県の試験場で、機械金属繊維、意匠工業、化学と四つの部があつて、それぞれ試験研究に携つています。私の配属されたのは、化学部の中でも、食品に関する部所です。毎日わからないことだらけで悪戦苦闘しています。

就職して生活面で一番大きく変わったことは、何と云つても朝が早くなったことです。学生の時には、朝、ひどいときには昼前に学校に行くことも多々ありましたが、今ではそんなことは許されるわけもなく、目覚まし時計を恨めしく思いながら、

おちがうなあ、と感じています。また、今までなら、わからない事は、なんでも先生が教えてくれる、という気持ちがいづつも頭にありましたが、でも、これからは、自分でその気になって、情報を集めて、自主的に勉強していかなければならないと残されてしまふ、というところが、仕事面で、

常々感じさせられることです。そのほか、新採研修では、技術系の人間ばかりではなく、行政や教職など、他の職種の人とも話ができて、見聞を広めるにはよかつたと思ひました。

まだまだ学生気分の抜け切らない私ですが、体力を養つて、よく学び、よく働き、またよく遊んで、頑張っていきたいと思つております。

社会人一年生

サンエイ糖化

研究開発部

武田 智子

歴代の先輩方々初めまして。私は今年の三月に卒業して、愛知県知多市にあるサンエイ糖化(株)に就職した者です。入社してからすでに半年がすぎ、社会人一年生としての態度が身についたといいたいところですが、

いと、えいと」と頭を悩ませてしまいました。そこで、「社会人となったからには……」といふのはやめて、私の現況を書かせて頂きます。

当社の中で私は研究開発部という所に一応配属され、一人前の仕事(実験)をまかされています。でも回りの方々がとても親切なので仕事は嫌だとかやめたいと思つたことはありませぬ。しかし重いですね、肩のあたりが。一つの仕事が片付くまで

で気がぬけません。それに遊んでいても頭のすみの方で、仕事の内容がチラチラと見え隠れするのです。常に考えてしまつて延長ではないかと悲鳴をあげたくなつたりもしてしまいます。

でも実験は楽しいです。同じ卒業生の中には仕事は嫌という人もいます。私も、私が樂觀主義なのか、それとも幸運だったのか、五月病とは全く縁がありませんでした。それとも仕事のつらさがわかつていなくて、これからやってくるのでしょうか?

ところで、当社はその名の通り砂糖関係の仕事をしていきます。澱粉も扱っているのですが、自由化の波がヒタヒタと迫ってきているため、そう安易にもしておれません。ここで様々な新

C9クラス会記

坂東 正一

C9クラスは、卒業年度がオリンピック開催年と重なつていて、そのことから、オリンピック毎に(四年に一回)クラス会を開催している。卒業後、東京

名古屋津名古屋熱海一豊橋と回を重ねた。第五回目の熱海からは、宿泊クラス会となつて開催している。今回は、五月十四、十五日、

新緑に輝く京都(大原)で開催した。残念ながら、恩師を招聘できなかったが、十八名のメンバーが出席して大盛況であった。C9クラスのメンバーは、

丁度五〇才を迎えたばかりである。従つて、実業家・企業人・官庁関係・独立独立派等々多岐にわたつてはいるが、いずれもが働き盛り・仕事盛りとして、重要なポストを占める面々である。

何時のクラス会でも同じであるが、お互いの顔を眺めた瞬間から、現実の姿・形を超越して、同一次元にタイムスリップしていく。昔のオレ・オマエの関係が瞬時によみがえり忘我の境地となる。クラス仲間とは、不思議な存在であり、また有難いものである。

午後五時過ぎには、十名が集まり、早くも声高な話し声と笑いにつつまれて、クラス会のムードが高まり始めた。午後七時、山口君の乾杯の音頭で宴会を開始した。今回は、民宿を貸し切り、宴会場も離れた家のため、周囲への気遣いは不要であり、即最高潮に達した。

酔いがまわらない内にと、次期幹事の選定を行ない、平田満磨君(補助)三重県在住者が全面協力する条件)にお願いし、次回は伊勢路開催の予定となった。酒食が一段落した時点から、各人の五分間スピーチに移った。今更改めてスピーチなど

製品を開発していかなければボナスどころか給料までもらえなくなつてしまふと思われまふ。そこでお願いです。新製品ができましたら、どうか購入して下さい。まだ企業秘密の段階らしい(私にはよくわ)

んが)ので詳しいことは書きませんが、酸の多く入つた新しい液体とだけいっておきます。もし、少しでも利用できるとお思ひになりましたら、是非ご連絡下さい。さつき、サンプルを持ってお伺いいたします。

……と始める前は遠慮勝ちであつたが、指名されると、どうして……仕事は勿論、人生論・病氣体験・愛妻論・趣味・悩み・儲け話などなど、ユーモアあり、蘊蓄あり、教訓あり、爆笑あり、時にはシミリさせられたり……。積み重ねた年輪相応に、話題には事欠かさず、いずれも五分を大幅に超過し、時のたつのを忘れさせた。

午後九時すぎに所用で帰宅する山口君を、C9クラス全員の健康と発展、ならびに四年後の再会を祈念して、三本締めで見送り、継続してスピーチの第二部となった。以後、十時半過ぎ

在伯 松尾君を迎えて

大四クラス会



昭和三十一年三月に卒業した私たちが大会四回のクラスは、ブラジルに三人も在住している。この中の一人、松尾が三月始めに商用で帰国したので、クラスのもの十一人が日を連日奥香落し集まつた。

三月十二日土曜日の夕方、近鉄名張駅で、地元上野市の和田(藤山)の出迎えをうける。大阪から細見が、青山トネネルをくぐつて花山、原田、松尾、載本の四人が電車を降りた。梅田、勝田、渋谷の三人は既に車で到着していた。

翌日の帰路は、和田がくれたワイン：彼の愛娘が描いたイラスト付きのワイン：を手にして、香落山荘へ向かう。山あいの高原と聞いていたがそれほど寒くない。橋を渡つた川向かいの宿の温泉につかっていると林(貢)と

会費納入のお願い
本年度までの会費未納の方はぜひ御納入頂きますようお願い申し上げます。なお御納入頂く際、卒業回数又は年月日を記入頂きますと事務処理がはかどりますので御協力下さい。
振替 名古屋59345
(会計担当幹事 久松)